

# と か ち 2 0 1 8



広大な農村風景(十勝管内)



朝霧(幕別町)

# 目 次

十勝管内図	・・・	1
十勝の主な指標	・・・	2
ようこそ十勝へ	・・・	3
1 十勝のあゆみ	・・・	4
2 十勝のすがた	・・・	5
3 産業	・・・	6
(1) 農業	・・・	8
(2) 林業	・・・	12
(3) 水産業	・・・	13
(4) 工業・企業立地	・・・	14
(5) 商業	・・・	15
(6) 観光	・・・	16
(7) 航空宇宙	・・・	17
北海道遺産	・・・	18
4 とかち「食・観・連」推進室の取り組み	・・・	19
5 交通・運輸	・・・	23
6 保健医療福祉	・・・	24
7 環境	・・・	26
8 消防防災・交通安全	・・・	29
9 道民生活	・・・	31
10 国際交流	・・・	32
11 教育	・・・	34
十勝の市町村	・・・	34
十勝で活躍するキャラクター達	・・・	45
十勝管内の日本一・世界一	・・・	47
各種統計数値で見る市町村のあらまし	・・・	49

## 表紙の写真

広大な農村風景（十勝管内）



朝霧（幕別町）





# 十勝の主な指標

項 目		単 位	十 勝	全 道	全道比(%)	出 典
面 積	総面積	km <sup>2</sup>	10,831.62	83,423.84	13.0	全国都道府県市区町村別面積調 (H29年10月1日現在)
人 口	人口	人	341,084	5,308,249	6.4	住民基本台帳
	世帯数	世帯	166,445	2,737,588	6.1	人口：H29年12月31日現在
	人口密度	人/km <sup>2</sup>	31.5	63.6	—	世帯：H29年1月1日現在
生 活	都市公園面積（供用）	ha	1,039.09	8,053.90	12.90	北海道の都市計画 (H29年3月31日現在)
	上水道普及率	%	96.2	98.3	—	H27 北海道の水道
	下水道普及率	%	84.9	90.8	—	H28 市町村公共施設状況調査
	病院数	箇所	33	566	5.8	H27 北海道保健統計年報
	医師数（人口10万人当たり）	人	172.5	240.5	71.7%	〔病院数：H27年10月1日現在〕 〔従事者数：H26年12月31日現在〕
教 育	小学校数（児童数）	校（人）	94（17,191）	1,061（245,504）	8.9（7.0）	H29 学校基本調査
	中学校数（生徒数）	校（人）	48（9,094）	611（131,051）	7.9（6.9）	
	高等学校数（生徒数）	校（人）	24（8,768）	283（126,799）	8.5（6.9）	
産 業	事業所数（民営・公務を除く）	箇所	16,153	225,300	7.2	H28 経済センサスー活動調査
	就業者数 ※	人	167,647	2,435,098	6.9	※分類不能を含む
	うち第1次産業	人	24,279	170,336	14.3	H27 国勢調査
	うち第2次産業	人	28,408	411,569	6.9	
	うち第3次産業	人	107,621	1,718,253	6.3	
農 業	総農家戸数	戸	5,544	44,433	12.5	2015年農林業センサス (H27年2月1日現在)
	十勝管内農協取扱高(平成29年概算)	億円	3,388	—	—	十勝地区農業協同組合長会、十勝農業協同組合連合会、十勝総合振興局農務課調
林 業	森林面積	ha	690,619	5,538,470	12.47	H29年度 北海道林業統計
	森林蓄積量	千立米	118,633	792,986	14.96	
	木材・木製品出荷額(家具を除く)	百万円	18,325	172,244	10.6	H28 経済センサスー活動調査 (製造業)
水産業	漁獲量	トン	30,456	859,926	3.5	H28 北海道水産現勢
	漁獲高	百万円	6,622	295,144	2.2	
工 業	事業所数	事業所	428	5,801	7.4	H28 経済センサスー活動調査 (製造業)
	従業者数	人	12,750	170,136	7.5	
	製造品出荷額	千万円	49,021	654,811	7.5	
商 業	事業所数	事業所	3,054	42,769	7.1	H26 商業統計調査
	従業者数	人	23,826	358,174	6.7	
	年間販売額	千万円	91,657	1,645,523	5.6	
観 光	観光客入込数	千人	9,557	140,993	6.78	平成28年度十勝総合振興局 商工労働観光課調

# ようこそ 十勝へ



十勝川

とがち  
「十勝」という地名は、管内を流れる十勝川をさすアイヌ語「トカプチ」からといわれています。意味については、「乳房・ある処」「幽霊」「枯れる」などいくつかの説が存在しもともとの意味ははっきりとわかってはいません。

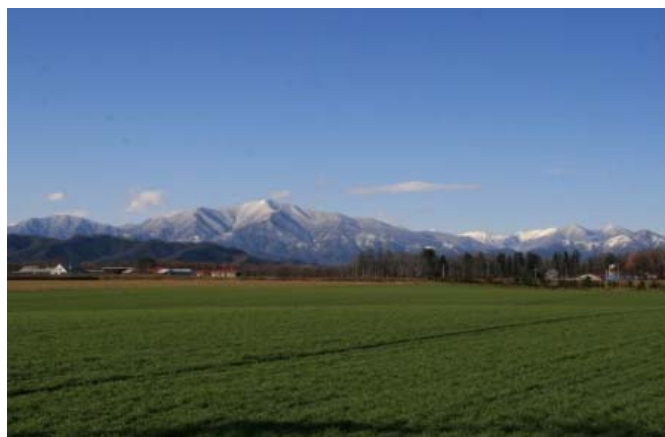
十勝川が日高山脈を背景として悠々と流れる姿は十勝の象徴でもあり、延長156km、北海道第3位の長さを誇り、十勝川水系には平野を潤す大小200あまりの河川が流れ込む、まさに十勝の母なる川です。

北海道の開拓が、食料確保と北の守りという目的のもと官主導で進められる中で、十勝の開拓は、明治16(1883)年に静岡県から入植した晩成社をはじめとして、富山、岐阜など本州からの民間の開拓移民により進められました。

先人たちは、山深い自然や大雨で氾濫する十勝川と立ち向かい、不屈のチャレンジ精神で幾多の困難を乗り越え、少しずつ畑を開いていったのです。

以来130年余り、十勝は寒冷な気象条件にありながらも、恵まれた土地資源を活かし、近代技術の導入や土地基盤整備を進めながら、農業を主要産業として栄えてきました。

十勝管内は、1市16町2村で構成され、日本最大の食料基地としての役割が期待されています。



中札内村から望む日高山脈(中札内村)

# 1 十勝のあゆみ



開墾の様子(大正初期)



帯広駅の様子(昭和初期)

1666 (寛文6) 年

松前藩家老 蛸崎蔵人、ピロウ(現広尾町)の十勝神祠に観音像を安置し、運上屋、番屋を置く。

1791 (寛政3) 年

ピロウ場所は、「トカチ場所」と改称する。

1869 (明治2) 年

蝦夷を北海道と改称、函館に開拓使を置き、十勝国を創設。  
(広尾、当縁、十勝、中川、河東、河西、上川の7郡51村)

1882 (明治15) 年

晩成社が静岡県で組織され、依田勉三、鈴木銃太郎は下帯広村(オベリベリ)を開墾地に選定。開拓使を廃止、函館・札幌・根室の3県を設置。

1883 (明治16) 年

晩成社移民団入植地に到着。

1886 (明治19) 年

3県を廃止、北海道庁を置く。

1897 (明治30) 年

河西ほか6郡役所を釧路国から分離して下帯広村に河西支庁を置く。

1923 (大正12) 年

戸長役場を全廃、町村制を施行。

1932 (昭和7) 年

河西支庁を十勝支庁と改称。

1947 (昭和22) 年

地方自治法の施行により北海道庁を北海道と改称

1948 (昭和23) 年

釧路国支庁より足寄、陸別の2村が十勝支庁に編入。

1957 (昭和32) 年

川西村、大正村が帯広市に合併。1市13町6村となり、ほぼ現在の姿となる。

2006 (平成18) 年

忠類村が幕別町に編入合併。十勝は1市16町2村となる。

2010 (平成22) 年

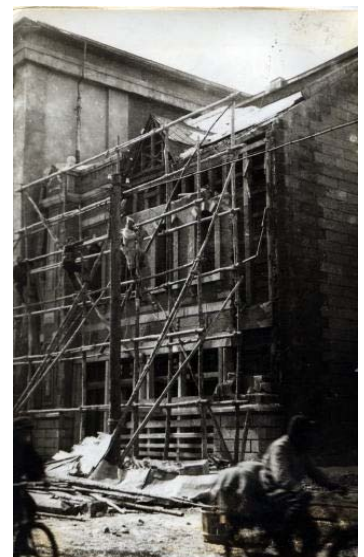
十勝支庁を十勝総合振興局と改称。



川西・大正・帯広合併パレードに沸く藤丸前(昭和32年)



太平洋戦争での帯広空襲被害の様子(昭和20年)



十勝沖地震での被害の様子(昭和27年)

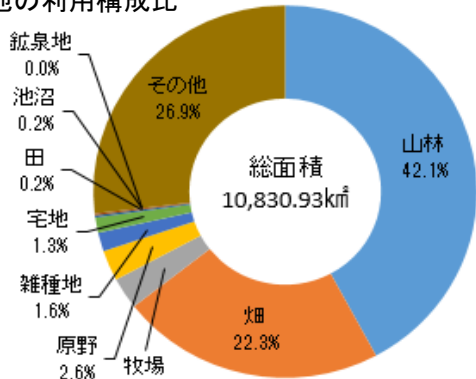
# 2 十勝のすがた

## ■ 気候

十勝地方は、太平洋岸を除き大陸性気候であることが特徴です。春には、フェーン性の乾燥した季節風が、日高山脈を越えて強風となることがあります。夏は、海岸部では海霧が立ちこめ日中の気温があまり上がりませんが、内陸部では比較的高温が続きます。冬は、寒冷高気圧（シベリア高気圧）により低温が続きますが、日高山脈で雪雲が遮られることから降雪量は少なく、晴天の日が続きます。

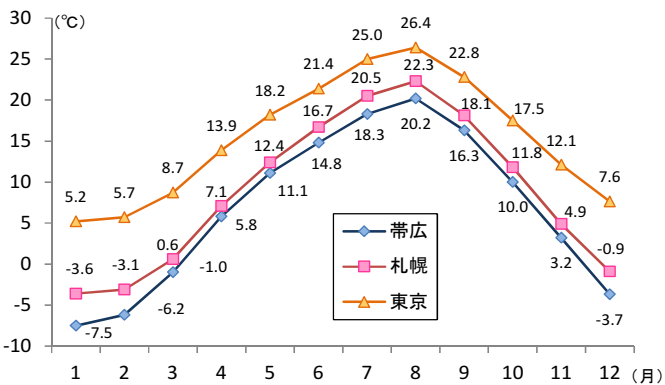
年間を通じて、全国的にも有数の日照時間に恵まれ、年間降水量も少なくなっています。

## ■ 土地の利用構成比

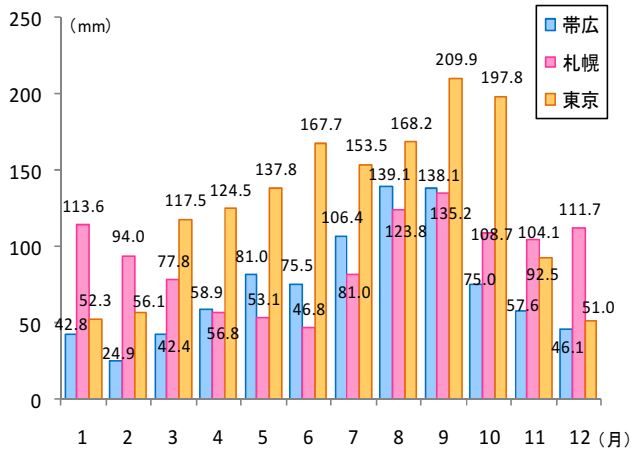


## ■ 気温 (平年)

資料：平成28年度固定資産の価格等概要調査



## ■ 降水量 (平年)



※気温・降水量とも1981～2010年の30年平均値 資料：気象庁HP

## ■ 人口

管内の総人口は、341,084人(住民基本台帳：平成29年12月31日現在)で、全道人口(5,308,249人)の6.4%を占めています。

帯広市が167,005人と管内人口の49.0%、さらに周辺の音更町、芽室町、幕別町の3町を合わせた帯広圏では257,636人と管内人口の75.5%を占め、その割合は増加傾向にあります。

1km<sup>2</sup>あたりの人口密度は31.5人となっており、全道の63.6人と比べ低いものとなっています。

年齢人口では、平成19年には13.7%だった14歳以下が、平成29年には12.4%と減少する一方、65歳以上は22.6%から29.4%と年々増加し、少子高齢化が進行しています。

(P25「年齢別人口及び人口比率の推移」参照)

## ■ 市町村別人口・世帯数の状況

区分	人 口					世 帯 数
	住民基本台帳	国勢調査				住民基本台帳
	平成29年12月31日	平成27年	平成22年	増減数	増減率(%)	平成29年1月1日
音更町	44,974	44,807	45,085	△ 278	△ 0.6	19,997
士幌町	6,146	6,132	6,416	△ 284	△ 4.4	2,645
上士幌町	4,903	4,765	5,080	△ 315	△ 6.2	2,378
鹿追町	5,455	5,542	5,702	△ 160	△ 2.8	2,471
新得町	6,143	6,288	6,653	△ 365	△ 5.5	3,299
清水町	9,510	9,599	9,961	△ 362	△ 3.6	4,626
芽室町	18,691	18,484	18,905	△ 421	△ 2.2	7,838
中札内村	3,913	3,966	4,006	△ 40	△ 1.0	1,807
更別村	3,231	3,185	3,391	△ 206	△ 6.1	1,305
大樹町	5,573	5,738	5,977	△ 239	△ 4.0	2,618
広尾町	6,991	7,030	7,881	△ 851	△ 10.8	3,420
幕別町	26,966	26,760	26,547	213	0.8	12,220
池田町	6,861	6,882	7,527	△ 645	△ 8.6	3,403
豊頃町	3,184	3,182	3,394	△ 212	△ 6.2	1,465
本別町	7,225	7,358	8,275	△ 917	△ 11.1	3,682
足寄町	7,036	6,990	7,630	△ 640	△ 8.4	3,516
陸別町	2,418	2,482	2,650	△ 168	△ 6.3	1,330
浦幌町	4,859	4,919	5,460	△ 541	△ 9.9	2,316
帯広市	167,005	169,327	168,057	1,270	0.8	86,109
十勝管内計	341,084	343,436	348,597	△ 5,161	△ 1.5	166,445
北海道	5,308,249	5,381,733	5,506,419	△ 124,686	△ 2.3	2,737,588

資料：総務省「国勢調査」